

稲WCSの栽培と収支概算について

稲WCS: 稲発酵粗飼料(ホールクロップサイレージ)

籾と茎葉を同時に収穫し、発酵させた牛の飼料。



稲WCSの栽培暦(ホシアオバ6月上旬田植え)

	5月			6月			7月			8月			9月							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中						
生育段階		播種期	出芽期		田植期	活着期		分けつ期		最高分けつ期		幼穂形成期		穂ばらみ期	出穂期	穂ぞろい期	乳熟期		黄熟期	
主な作業	塩水選・種子消毒	播種			元肥	田植	病害虫防除	雑草防除		(追肥)	(病害虫防除)		(病害虫防除)	追肥						刈取り
水管理											中干						落水			

稲WCSを 栽培する場合の留意点①

- 「ホシアオバ」など大粒系の専用品種は、播種量を増やす
「ヒノヒカリ」・「あきたこまち」のおおよそ1.3倍
- 農薬について
食用の稲より早期に収穫することや稲体すべてを飼料として用いる等の理由により、農薬の使用には注意が必要。
また、一部品種では除草剤（ベンゾビシクロンなど）に感受性あり。

稲WCSを 栽培する場合の留意点②

- 収穫作業

主食用米と違う機械を使用

(専用収穫機、ディスクモア、ロータリーレーキ、
ロールベアラ、ラッピングマシンなど)

- 土作り資材の増量

わらも圃場外に持ち出すため、ケイ酸資材、完熟堆
肥を施用

稲WCSの収穫作業体系

	刈倒	集草	梱包	密封
専用収穫機体系	専用収穫機			ラッピングマシン
既存機械利用体系	モア	レーキ	ロールベーラ	ラッピングマシン

収穫作業について①

●これまで(大型ロール)

• 特長

ジェイエイサービスが専用収穫機(大型)を使用し、
収穫以降の作業を委託。(現在約40ha)

• 課題

専用収穫機(大型)は高額。狭い農地では取り回しが難しい。

大型ロールはベールグリッパなど運ぶ機械が必要。
小規模畜産農家ではロール開封後1~2日で使いきるのは困難。



「小型ロール」を生産すれば小回りが効くので良い

収穫作業について②

●検討(小型ロール)

・特長

機械がなくても運べ、取り扱いやすい。

既存機械利用体系(モア、レーキ等牧草用に機械を導入している畜産農家が収穫・調製作業を行う場合)新たな投資を必要としない。(ただし、大区画、排水良好な乾田向き)

・課題

機械専用収穫機械(小型)が製造中止となり、「モアによる刈倒」、「レーキによる集草作業」を別に行う必要があり、手間が増える。



R5年度より現地実証により、作業性、収益性等を検討

収穫作業について③

●小型ロールの現地実証

R5年度は機械を借りて現地実証を計画。

刈倒(モア)、集草(レーキ)、梱包(ロールベアラ)、
密封(ラッピングマシン)について、作業委託し

①作業時間などを調査、②飼料としての有効性確認

※本格的取組に向けては、機械所有、作業分担に
ついて検討が必要

水稲作と稲WCS栽培の収入比較

- 水稲作

$$501\text{kg}/10\text{a} \times 12,855\text{円}/60\text{kg}(\text{※}1) = 107,339\text{円}$$

- 稲WCS

130,100円

大型ロール(300kg)の場合: 10aあたり8ロール(目標)

$$300\text{kg}/\text{ロール} \times 8\text{ロール} \times 14\text{円}/\text{kg}(\text{※}2) = 33,600\text{円}$$

水田活用の直接支払交付金 WCS : 80,000円/10a

産地交付金

(県設定)※取組要件あり。(複数年契約、たい肥散布など)

耕畜連携助成: 13,000円/10a

(地域設定)※取組要件あり

担い手加算(五條市のみ): 3,500円/10a

※1、※2: R4価格